



❀ 昔の偉大な人の教え ❀

韓国(かんこく)さいしょの火薬(かやく)ぶきのはつめいか(発明家)、さいもせん(チェ・ムソン)

年齢

・ 児童(6~9歳)

主題

- ・ 目標: あきらめないこんきとそうぞうりよく(創造力)のたいせつさをりかいする。
- ・ 主題: どりよく、こんき

キーワード

- ・ どりよく、こんき、さい もせん(チェ・ムソン)、打ち上げ花火、火薬(かやく)、ゆうき、かいぞく、こうらい(コリョ)

韓国文化

- ・ 目標: 打ち上げ花火がむかしからどんなぎょうじとおまつりでつかわれていたかをしらべてみる。
- ・ 要素: 打ち上げ花火

韓国語

- ・ 目標: どうし(動詞)‘はつめいする(発明する)’のいみをならい、つかってみる。
- ・ 単語: 발명하다 (つめいする(発明する))
- ・ 表現:
나는 _____(을/를) 발명하고 싶어요.
(わたしは_____をはつめい(発明)したいです。)
이 발명품은 _____에 도움이 돼요.
(このはつめいひん(発明品)は_____のやくにたちます。)

❀ 口演 活動内容



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、こんにちは！

みなさん、こんにちは。わたしはみなさんにたのしいお話をする‘○○○’、うつくしいお話のおばあちゃんです。



題名 を教える

今日、おばあちゃんがするお話は、タイトル、さっさと出てこい！

“韓国(かんこく)さいしょの火薬(かやく)ぶきのはつめいか(発明家)、さいもせん(チェ・ムソン)”です。

みなさん、花火は好きですか？火花は火薬(かやく)からつくります。こうらい(コリヨ)じだいにそらでパンパンとひらく花火を見て、‘わたしは火薬(かやく)をつくって、ぶきをはつめい(発明)するぞ’とかんがえた、りこうな少年がいました。とうじ、火薬(かやく)は中国だけでつくられていました。しかし、じっさいに火薬(かやく)をつくることはかんたんではなかったのです。それでも、少年は大人になって、ついに火薬(かやく)をつくって、火薬(かやく)ぶきをはつめい(発明)しました。かれがどうやって火薬(かやく)ぶきをはつめいしたのか、お話をきいてみましょうか？



お話の始まりの歌を歌う

“韓国(かんこく)さいしょの火薬(かやく)ぶきのはつめいか(発明家)、さいもせん(チェ・ムソン)”のお話の中へしゅっぱつ！

🎵 いち にい さん し！ お話のはじまり！ わたしたちみんなが たのしく、よくきいてみましょう。 みみはピンと、めはきらっと、じゅんびはできましたか？

🌟 いち にい さん し！ しゅっぱつします。パンパン～🔊



❀ お話を聞かせる

むかしこうらいじだいにさい もせんという子どもがすんでいました。もせんは小さいときからこうきしんがおおくて、りこうでした。また、やりたいことがあればあきらめなくて、さいごまでいっしょうけんめいにしました。

そうしたある日でした。

“もせん、いっしょに打ち上げ花火を見にいこうか？”

おとうさんはもせんの手をにぎって、いえを出ました。

“パン！パパーン！パン！”

まっくらなそらに、はなやかな花火がししゅうを入れたかのようにかがやきました。打ち上げ花火はとてもきょうみぶかくて、うつくしかったです。

“おとうさん、花火はどうやってつくるんですか？”

そしたら、おとうさんはもせんにわかりやすくせつめいしてくれました。

“花火は 火薬(かやく)からつくるんだ。それだけではないぞ。火薬(かやく)でつよいぶきもつくることができるんだ。火薬(かやく)でつくったぶきは、どれだけ大きなふねも、いちどで火をつけることができるんだ。”



🌸 お話を聞かせる

“ほんとうですか？すごいですね！”

おとうさんのことばをきいたもせんは、火薬(かやく)についてもっとくわしくなりたくなりました。しかし、こうらいには、火薬(かやく)をつくるざいりょうがありませんでした。つくるほうほう(方法)もわかりませんでした。火薬(かやく)は中国の人びとだけがつくれたからです。

“う～ん、いつかわたしがかならず 火薬(かやく)をつくらなければいけない。”

もせんはこころの中でおもいました。

じかんがすぎて、いつのまにかさい もせんは大人になりました。国のしごとをするかんしょくにもつきました。さい もせんはせんそうでつかうぶきやはた、よろいなどをつくるところではたらくことになりました。さい もせんはしごとのあいまに、わすれないで 火薬(かやく)をつくるほうほう(方法)をけんきゅうしました。

ある日、さい もせんがしごとをおえて、いえにかえるところでした。みちばたに人びとがあつまって、ざわざわしていました。むねをたたいて、ないている人もいました。

”いったい、なにごとですか？”

とてもおどろいたさい もせんが、人びとにたずねました。



❀ お話を聞かせる

“日本から入ってきたかいぞくたちのせいで、ほんとうに生きていけません。たべものとかいものをすべてもちさって、人びともむやみにたたくんです。”

“うみべのちかくにすむ村の人びとは、もっとひどい目にあっています。”

さい もせんはいかりがこみあげてきました。

“かならず、火薬(かやく)をつくって、ぶきをはつめい(発明)しなければいけない。そのぶきで、日本のかいぞくをはやくおい出さないとな!”

しかし、火薬(かやく)をつくるのは、やはりかんたんなことではありませんでした。こうらいでは、火薬(かやく)につかうざいりょうをさがすことが、とてもたいへんでした。また、そのざいりょうを手に入れても、火薬(かやく)をつくるほうほう(方法)がわからなかったのです。

さい もせんは、中国の人びとがふねにのってくるたびに、いろんなしゅだんをつかって、たずねました。しかし、国のひみつだとぜったいにおしえてくれませんでした。そのため、さい もせんは一人でざいりょうを手に入れて、火薬(かやく)をつくるじっけんをして、ひどくけがをしたりもしました。でも、さい もせんはあきらめませんでした。人びとはそんなさい もせんをたしなめました。

“おねがいですから、じっけんはもうやめてください。人がけがをしたら、どうするんですか?”



❀ お話を聞かせる

しかし、さい もせんはころざしをまげませんでした。

そうしたある日、中国の火薬(かやく)をつくるころではたらいたことがある、りげん(イ・ウォン)に会いました。さい もせんは、りげんにどうかしてくれとおねがいしました。

“火薬(かやく)がないとだめなんです。これいじょう、日本のかいぞくにこまっているたみたちをみていられません。おねがいですから、 火薬(かやく)をつくるほうほう(方法)をおしえてください。”

“それでもだめです。”

りげん(イ・ウォン)は口をぎゅっととじました。さい もせんはあきらめないで、まいにち火薬(かやく)のつくりかたをおしえてほしいとおねがいしました。すこしじかんがたつと、国とりんじんをおもうさい もせんのところをりげん(イ・ウォン)もかんじることができました。けっきょく、りげん(イ・ウォン)はさい もせんから火薬(かやく)をつくるほうほう(方法)をおしえてあげました。

さい もせんはそのほうほう(方法)をきいて、たんじゅんにそのやりかたでつくるだけではありませんでした。ながいあいだ、みずからけんきゅうしてきたものをつなげてみて、かんがえました。そして、じぶんのかいはつしたほうほう(方法)をつかいました。



🌸 お話を聞かせる

“いやあ、ついにできた！できたぞ！”

ついにさいもせんは、王としんかたちのまえで、火薬(かやく)をおひろめました。人びとはさいもせんがしっぱいするとおもいました。しかし、さいもせんのかやくは‘ポン！パパーン！ポン！’と力づよくはじけました。

“うわあ！すごいな！火薬(かやく)をつくるとは！”

見ていた人びともみんながとてもおどろきました。

火薬(かやく)をつくり上げたさいもせんは、火薬(かやく)でさまざまなぶきをはつめい(発明)しはじめました。

“日本のかいぞくたちをうちやぶることができるぞ！”

さいもせんがつくったかほうは、とてつもない力をもちました。とても大きなふねをひきつれてせめこんできた日本のかいぞくたちは、びくっとおどろきました。

“すごいな！こうらにあんなぶきがあったのか？すぐににげよう！”

そのあとから、日本のかいぞくたちはこうらにむやみにせめこんでこなくなりました。ねばりづよくどりよくしたさいもせんのおかげで、そのあと人びとはあんしんして、くらすことができました。



❀ 口演 活動内容



韓国文化, 韓国語を紹介する

みなさん、おばあちゃんがしたお話をよくききましたか？さい もせんは、かいぞくたちをしりぞけるためにどうしましたか？

はい、火薬(かやく)をつくって、かやくぶきをはつめい(発明)しましたね。さい もせんは、韓国(かんこく)でさいしょにかやくぶきをはつめい(発明)した人です。‘はつめい(発明)’はいままでなかったあたらしいものやほうほう(方法)をさいしょからかんがえてつくり上げることをいいます。り しゅんしん(イ・スンシン)はきっこうせんをはつめい(発明)して、せいそう大王(セジョンテワン)はくんみんせいおん(訓民正音)をつくりました。おともだちは、どんなものをはつめい(発明)したいですか？いちど、かんがえてみましょう！

みなさん、さい もせんが小さいときに何を見て、火薬(かやく)をつくろうとおもいましたか？

そうですね。おとうさんといっしょに見た打ち上げ花火ですね。おともだちは、打ち上げ花火を見たことがありますか？そらにポン、ポンと、はながさくようにうつくしい打ち上げ花火は、いまでも大きなおまつりや国のきねん日などで見られます。そしたら、むかしはどんなぎょうじやおまつりで打ち上げ花火 をつかっていたのか、しらべてみましょうか？打ち上げ花火のお話にきょうみがあるおともだちは、‘どらんどらん お話ホームページ’でくわしいないようをしらべてみてね！



❀ 口演 活動内容



お話を整理する

みなさん、“韓国(かんこく)さいしょの火薬(かやく)ぶきのはつめいか(発明家)、さい もせん(チェ・ムソン)”のお話をいちどまとめてみましょう。

こうらい(コリョ)じだいのさい もせんは、おとうさんと花火を見たあとに、火薬(かやく)にきょうみをもちました。大人になったさい もせん(チェ・ムソン)は、国をまもるために、火薬(かやく)をじぶんでつくろうとけっしんしました。つくりかたもわからず、ざいりょうもかんたんには手に入らなかったけれど、あきらめないでずっとどりよくしました。そして、ついにじぶんだけのほうほう(方法)で火薬(かやく)をつくることにせいこうしました。さい もせん(チェ・ムソン)がはつめいした(発明した)かやくぶきのおかげで、日本のかいぞくをしりぞけることができ、人びとはあんぜんで、へいわにくらすことができるようになりました。みなさんも、さい もせん(チェ・ムソン)のように、しようとおもったことがあれば、あきらめないで、さいごまでどりよくするおともだちになってください。



お話のあとのうたをうたう

そしたら、お話のおわりのうたをいっしょにうたいながら、おばあちゃんとあいさつします。お話のおわりのうた、はじまり！

🎵 いち にい さん し！よくききました。 みんなころろがあたたかくなりました。
みみはピンと、めはきらっと、とてもいいですね。

🌟 いち にい さん し！ またあいましょう、 パンパン～！ 🗣️



ごあいさつ

おへそにお手てをあてて、ごあいさつ！

みなさん、つぎのうつくしいお話のおばあちゃんであいましょう。さようなら！

